

国でトップですし、ファミリー層から若年層まで総じて貧困化しているのです。時代の閉塞感とあわせて、橋下氏なら何かやってくれそう、と感じてしまったのです。

でも非正規雇用が増えたのは、もちろん労働組合の責任ではなくて、新自由主義を押し進めた歴代政治の責任なのです。

例えば、橋下氏のブレンといわれる堺屋太一さんは経済企画庁長官の時代、1999年に、派遣労働を解禁しました。「これから正規ではなく、派遣や請負労働の時代だ。次々と好ましい仕事を労働者が選択できる。今までの年功序列や終身雇用は、もう時代に合わないんだ」と、非正規雇用を増やす先頭に立っていた人なのです。そして小泉政権になって、製造業や日雇い労働にも派遣が可能になり、ワーキングプアという言葉が社会的大問題になるような世の中になっていったのです。

なぜ大阪がそれほどまで貧困化していったのでしょうか？

二宮 関西財界の責任が大きいと思います。東京一極集中の裏返しとして、大阪からどんどん本社機能が逃げ出して、集積利益を奪



©産経新聞 / ケンティイメージズ

任を追及されないのか？これもまたメディアの責任と言わざるを得ません。テレビや新聞が橋下氏の手法に飲み込まれて、萎縮しているのです。某テレビ局が橋下氏にちょっと批判的な特集を組むと、翌日の記者会見で、彼は質問もされていなのに、某テレビ局だけ吊るし上げて非難する。そんな姿を見せつけられて、新聞記者やテレビのレポーターやコメントーターが、彼への批判的コメントを一種のタブーとして控えている状態です。おそらく彼はタレント時代の経験から、テレビや新聞との付き合い方を知っているのかもしれないね。

橋下氏は吹田市にある府立

われ、地域経済が沈下していきました。

次に大手企業、例えば家電業界が、輸出産業として大阪の下町の中小企業や工場に発注していた仕事を、21世紀になってから、アジア志向に切り替えた。昔は地域の人材や資源を、企業が利用して会社を大きくしていったのに、下請け部門までアジアに移転させてしまった。つまり関西財界も大手企業も、大阪を見捨てたのです。

3つ目に、地域経済が沈下して失業者が急増しているのに、自治体が有効な対策を打たなかったことが挙げられます。地域が貧困化したなら、自治体も困るのですが、福祉や医療などのセーフティネットを、地域を再生する努力を怠ってきた。かつて吹田市が革新市政だった頃は、共働き夫婦が働き続けることができるように、保育・教育行政に力を入れました。

簡単に生活保護にいたらないように、高齢者医療や介護などにも力を入れ、貧困化を防ぐ努力をしてきたのです。しかし、大阪府大阪市をはじめ、巨大な開発には力を入れるものの、肝心の住民生活を守る施策については、近年、カットし続けてきたのです。つまり経済が沈下する中で、大阪府民は行政からも疎外されてきたの



国際児童文学館を廃館にするとき、職員の仕事状況を盗撮しました。今回の庁内メール盗み見事件もそうですが、これは明らかに犯罪ですよ。なぜここまでやるのでしょうか？

二宮 これは彼の弁護士としての経験が、後押しをしているのではないのでしょうか？例えば、税務署職員が脱税疑惑で自宅捜査をする場合、「違法な捜査方法であっても、最後に何か一つ、どんな小さなことでも脱税の証拠が見つければ、捜査はとがめられない。何が何でも証拠をつかむことだ」と知り合いの税務署職員が言っていました。警察や検察の別件逮捕と似たようなこと

です。

だから橋下氏が「大阪府役所をぶっ壊す」とダブル選挙で叫んだ時、少なくとも大阪市民が、「よく言ってくれた」「スツとした」と拍手を送ったのだと思いますよ。

そんな橋下氏をテレビなどのメディアが持ち上げていたのも、大きな理由の一つではなかったのでしょうか？

二宮 そうです、メディアの責任も大きい。既得権を叩くという手法は、実はナチスドイツのやり方なのです。

ヒトラーは「敵に対する攻撃は、仮借なく、徹底して行うべし」と述べています。積極的に攻撃を続けることで、「攻撃する側に正義がある」と大衆は理解する。社会が混沌としている時は特にそうですが、徹底して攻撃し続けること、一歩も引かないこと、少々間違っても攻め続けること。ちょっとでも引くと、テレビや新聞に突っ込まれるので、常に勢いある強気の姿勢でのぞむ。例えば、大阪府役所の労組が選挙支援のリストを作っていた、と維新の会の市議が、リストを問題にしましたが、後になって、それはねつ造だったことがバレましたね。橋下氏はあ

の時、ちょっと迷って、一旦謝罪したのです。でも翌朝になって「労働組合のぬれぎぬを晴らしてやった」と開き直ったのです。リストねつ造問題で一歩引くと、市役所職員への思想調査アンケート、庁内メール盗み見など、全てがマイナスに回転してしまう。ですから一夜明けて、一転して強気の姿勢で記者会見に臨んだのだと思います。

テレビや新聞が、橋下氏の一挙手一投足をただ単に追いかけて報道するだけでは、結果として彼の宣伝になるだけです。彼の政治手法を分析して、政策の中身を評価、批判しなければならぬ。それが本来のジャーナリズムです。

リストねつ造問題に加えて、庁内メールの盗み見や、業務命令としての思想調査アンケート、卒業式君が代斉唱での口元監視事件など、どれ一つとっても「政治家として終わり」のような事件が続いているのに、なぜ彼だけ責任を問われないのでしょうか？

二宮 これが国会の場合、例えば大臣ならおそらくどの事件でも辞任に追い込まれているでしょうね（笑）。なぜ橋下氏だけが責

の木鐸なのです。

そんな橋下氏が、今は大阪府役所の労組を徹底的に叩いています。この真の狙いはどこにあるのでしょうか？

二宮 彼にとって、既得権とは社会権なのです。労働基本権は、教育権や生存権と並ぶ社会権です。この社会権は競争とはなじみません。例えば「全ての子どもは教育を受ける権利がある」「人には健康で文化的な最低限度の生活を営む権利がある」ことは憲法で守られているのですが、「ジャングルの中の生存競争を生き残れ！」と鼓舞する橋下氏にとっては、そんな権利を生ぬるく感じてい